

## 平成28年第23回秀麗富嶽十二景審査

### 総 評

応募作品数、計28名146点、撮影者各自が渾身の力を揮っての力作。審査にも思わず力が入る。富士山を狙う20の山、無数の撮影点があるとはいえ、好展望に恵まれた山、そうでない山頂や山腹から、その時々条件もあって、いくら渾身の力を揮っても、理想の富士が撮れるとは限らない。それはプロを自任する私たち、それを職業としているプロ写真家をもってしても容易なことではない。

ことにこのコンテストに応募される皆さんは別に仕事を持ち、その合間を利用して、天候を見定めて山に登り、好天・悪天に関係なくシャッターを切らなければならないハンディがある。そうした制約の中で尚、これだけの作品をものするには生ま半可な覚悟では到底追い付くものではない。

だが、応募作品を一覧するだけで、全員が決死の覚悟で富士に対していることが一目で理解できる。私たちプロであっても、ともすれば、ついその辛さから中途半端な気持ちでシャッターを切ることがあるが、ここに応募された146点の作品には、そうした中途半端な覚悟というものは最初から髪の毛ほども見当たらない。まさしく決死の覚悟で早暁から起きて山に登り、苦しい中に“富士は見えるか？”という不安に苛まれながら山頂に至るであろうことが歴然と見てとれる。

いつも云うことだが、写真を撮ることは、その対象との決闘である。中途半端な気持ちで富士山に対した時点で、すでに完敗といってよい。富士山と撮影者は、相見合う前から決闘の場に足を運んでいるのであって、一瞬の気のたるみが、自らの屍をすでに野にさらしているのと同様である。

一瞬の判断もなく、その一瞬一瞬に相手の隙を狙っての決闘と同様である。その気魄が相手を圧倒してこそ勝利を得るのである。今回の作品も撮影者がそれぞれの気魄を以って富士山を圧倒し去った、ともいうべき出来栄えと見た。そして、来期もまた今回に劣らないすばらしい富士山を見せて欲しいと心から望んでいる。

応募者の皆さんに富士の微笑みをもたらせる報福を祈って・・・・。

平成28年2月 審査員長 白 籟 史 朗